

初生の赤子として信純単一にこの修行に専念す。

合掌

3月で終了した NHK の朝の連続テレビ小説「マッサン」から。物語の終盤に、「本物」のウイスキーにこだわっていた主人公が、自分のこだわりを捨てて、3級酒を造るという話がありました。勿論、「本物」の味にはこだわります。しかし、それまでは、「混ざりものなし」ということにこだわっていた主人公が、今、「世の中の人々」が求めているものは何か、「世の中の人」が求めているものこそ「本物」であると気づき、「自分」のこだわりを捨てたのです。つまり、それまでの「自分の為」のウイスキー造りから、「世の中の人々の為」のウイスキー造りへと変わったということだと思います。勿論自分勝手に自分の好きなウイスキーが飲みたいからと言って造っていたわけではありません。自分の求めていた本物のウイスキーを日本人に飲んでもらいたいという思いからです。しかし、それは結局「自分の為」でしかなかったということに主人公は気づくのです。

「マッサン」が変わったのは、彼の甥っ子が、シベリア抑留から帰国し、生死の極限の中から生きて帰った彼が、マッサンが自分の「本物」にこだわっている姿を見て、「本物って何ですか！」と詰め寄る言葉がきっかけでした。それまで、物語の中で、マッサンは、終始、自分の追い求める「本物のスコットランドウイスキー作り」にこだわってきました。周りの意見にはなかなか耳を貸しません。「本物にこだわる」というのは、決して悪いことではありません。生き方としては格好良いかな。しかし、ここで問題なのは、その「本物」は、何のための本物なのか、誰の為の本物なのかということではないでしょうか。それには、自分の心の門戸を開き、広く人の声を聞くということが大事なだろうと思います。それは、人の言動に左右されて、自分が無いということではありません。自分のやりたいこと、自分の信念、心の軸はしっかりと持ちつつ、それにこだわりすぎず、人の意見の良いものは取り入れていく姿勢を持つということです。これは、簡単に見えて実はかなり難しいことです。こだわりのある人ほど、難しいでしょう。まさに「マッサン」がそうでした。自分の追い求めるウイスキーにこだわって、他の人の言葉に耳を貸さない間は、ウイスキー造りが上手いきません。しかし、したいに多くの人の言葉に耳を傾け、それらを取り入れつつ、自分の追い求めるものにも妥協しないウイスキーは、次第に世の中に認められていきます。

少林寺拳法では誓願の中で、「我等一切の既往を清算し、初生の赤子として真純単一に此の修行に専念す。」と唱えます。「此の修行」とは、勿論少林寺拳法の修行の事ですが、それは、少林寺拳法以外の、様々な場面に当てはまることです。何かを教わる時には、教えてくれている人の言動を素直に聞き、また、自分に忠告してくれたり、提言してくれたりしていることも、真摯に耳を傾け受け止める。そういう姿勢を常に持つことを意識している人は、成長します。また、そういう人には、多くの人が手助けしてくれたり、言葉をかけたりしてくれます。「自分はこうなんだ。」「自分が絶対正しい。」と、他の人の言葉を聞き入れない人には、誰も何も言わなくなり、次第に人も離れていくでしょう。

しかし、こうした「初生の赤子」としての在り方は、結構難しいものです。例えば、仕事で言えばもう何十年ものキャリアがあれば、その中で培ってきたことがあるわけで、それを1から変えるように言われれば、「そんなことはできない。」と思うでしょう。また、少林寺拳法の技にしても、自分なりのものを持っている人は、違うような技の方法を言われれば、「それは違う。」と思うこともありますね。しかし、そんな時、全て自分が正しいと、他の事を聞き入れなかったり、折り合いをつけずに、ぶつかってばかりだったりしていたら、どうでしょう。きっと上手いきません。

自分の身に付いているいろいろなものを捨てて、「初生の赤子」に、事あるごとに変えることが出来れば、人生ももっと豊かになってくるかもしれません。

さて、6月14日に県大会が実施されます。昨年は、埼玉県での全国大会の為、規模を縮小しての全国大会選考会という形でしたが、本年度はまた、県大会として実施されます。当然、入賞者にはメダルも出ます。メダルを取ることが目的ではありませんが、目標として努力することは大切です。ゴールデンウィークを過ぎると、もう一ヵ月前となります。団体演武や組演武、単独演武。なるべく休まず、修練に参加して、ぜひ努力してほしいと思います。